



東中だより

目指す学校像
キャッチフレーズ

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)
男子 195
女子 181
計 376



夏の大会に思うこと



校長 阿部 仁

～未来の先生を目指して～

5月12日(月)から3週間にわたって、3名の大学生のみなさんが、教育実習に励んでいます。社会科、英語科、家庭科では、指導担当教員のもとで教科指導に励み、所属学級では、学級経営や生徒理解について、実地で学んでいます。

最初のうちこそ緊張感が垣間見えていましたが、次第に生徒とコミュニケーションをとり、意欲的に実習に取り組んでいる姿をみて、おそらく3名とも、素晴らしい先生に成長していくだろうなと思いました。頑張れ!未来の「先生」!

※教育実習は、5月30日(金)までの期間で終了しました。実習生のみなさん、指導担当の先生方、お疲れさまでした!

りません。当然ながら、対戦相手の学校の選手にとっても“最後の公式戦”には違いありません。つまり、お互いにとって「負けられない戦い」なのです。だからこそ、お互いに全力でぶつかり合うことに対する真摯な姿勢が大事なのです。それはつまり、対戦相手も自分と同じ気持ちで試合に臨んでいるということ意識することと、そのような相手(チーム)と試合ができることへの感謝の気持ちを持つことです。言い換えれば、対戦相手に対する敬意を払うということです。「礼」に始まり「礼」に終わる。この時の自分の振る舞いには、気をつけてほしいと思います。

～勝敗を越えて～

～学校総合体育大会に向けて～

さて、6月4日(水)から、令和7年度学校総合体育大会二市大会が開催されます。思い返してみると、現3年生は、昨年秋の新人戦から主力メンバー(代替わり)となり、各種大会や練習試合を通して、チームプレーや個人技術や技量の向上に励んできたと思います。3年生にとっては、“最後の公式戦”となるだけに、気合も漲っているのではないかと思います。

トーナメント戦であれば、敗退するチームの負け数はみな同じ「1敗」です。1敗もしないチームや選手が、全国優勝なのです。それ以外は、負けの数では平等なのです。だからこそ、勝敗の数以外に、試合から何を学んだかが重要だと思います。「悔しい」や「勝ってうれしい」だけにとどまらず、試合で考え、感じた「何か」を見つけて欲しいと思います。

自分の技術が思うように身につかなかったり、チームとしてなかなか結果が出なかったり、反対に、素晴らしい仲間と共に汗を流した時間がかけがえのないものとして自分の心に残ったり、部活動を通して得たことは多いと思います。それらの思いを背負って、全力で力を発揮してほしいと願っています。

— 了 —

～対戦相手への敬意を忘れずに～

気合が漲っているのは、自分たちだけではあ